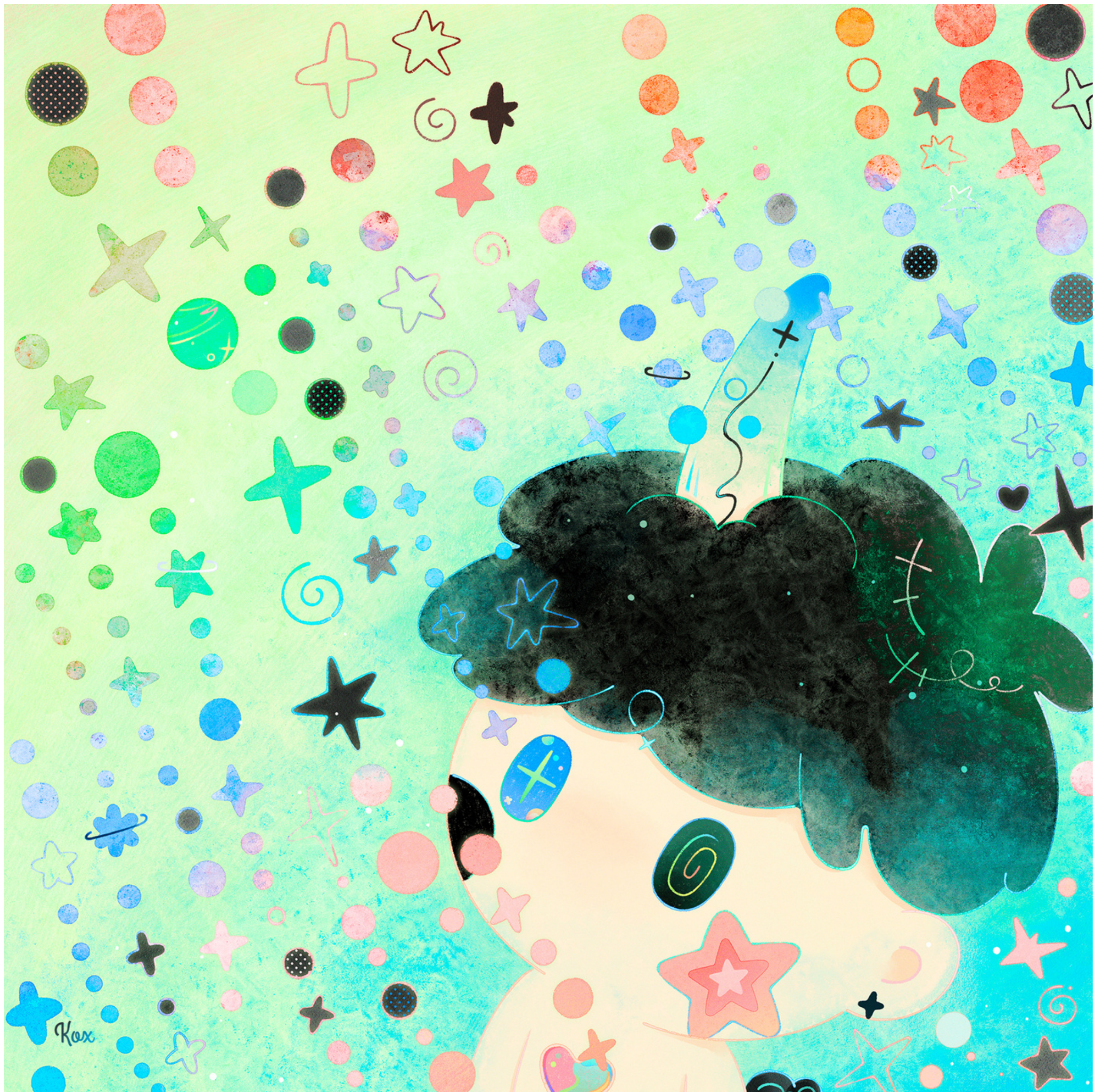


わくわく中国文化



—三国志から四字熟語を勉強しよう②—

Illustration by KOH_HSL(instagram)

著者の一言



皆さん、四字熟語は難しいと思いませんか。中国語の四字熟語の多くは古書や典故から来ています。その由来を知っておけば、四字熟語も覚えやすくなると思います。今年度は日本でも有名な中国の「三国志」に関する四字熟語を紹介したいと思います。中国語をもっと上達させたい人や三国志に興味を持った人や四字熟語をもっと身につけたい人にふさわしい内容をたっぷり載せますので、ご覧いただければ幸いです。

百步穿杨 (bǎi bù chuān yáng)

汉语成语，在一百步远以外射中杨柳的叶子。比喻射箭技艺高超，本领非常高强，最早出自《战国策·西周策》。



◀ 『百步穿杨』 / (Baidu)



◀ 『黄忠』 / (Baidu)

この四字熟語は百歩離れたところから柳の葉を射止めることから、弓術に堪能で、腕は非常にすごいという意味が派生しました。最初は「戦国策・西周策」から出ました。三国志の中でこの比喩にふさわしい人物は蜀の五虎大将の一人である弓の名手・黄忠（こうちゅう）です。黄忠は60歳を過ぎても、なお敵将を討ち取っていた、勇猛果敢な戦士です。

大获全胜 (dà huò quán shèng)

"获"特指战争中俘获敌方人员与物资的实质性成果，而"全"则强调胜利的全面性与彻底性。专指获得完全胜利的军事或竞争成果。罗贯中《三国演义》第三十六回描写刘备与曹仁交战时记载："玄德大获全胜，引军入樊城"，展现战役的全面胜利场景。

「獲」とは戦の中で敵を捕虜して物資を鹵獲（ろかく）するということで、「全」とは勝利の全面と徹底性のことです。特に軍事上や競技上で全面勝利を得たことを指します。羅貫中さんが書いた「三国演义」の第三十六回に劉備と曹仁の交戦した際、「劉備玄德は全面勝利を得て、樊城に軍隊を率いて入った」という記載があり、この戦に関する全面勝利が描写されました。



▲ 『劉備』 / (Baidu)

群雄逐鹿 (qún xióng zhú lù)

形容各路英雄纷纷争夺天下，形势混乱，没有明确的霸主。出自西汉·司马迁《史记·淮阴侯列传》：“秦失其鹿，天下共逐之”三国时期，汉王朝没落，各路诸侯群起争夺地盘，最有名的几位，就属曹操，刘备，孙权，袁绍，吕布等人。



群雄が鹿を逐（お）う

各英雄は帝位や政権などを得ようとして争って、天下が混乱状態に陥って、中心的人物が現れていないという意味です。この四字熟語の由来は前漢の司馬遷さんが書いた「史記」淮陰侯伝の「秦其の鹿を失い、天下共に之を逐う」です。三国時代に、漢王朝が衰えてきて、各諸侯は一斉に立ち上がって自分の勢力範囲を広げるために争っていました。その中で有名な人物は曹操、劉備、孫権、袁紹、呂布などです。

身在曹营心在汉 (shēn zài cáo yíng xīn zài hàn)

出处是《三国演义》第二十五回至第二十七回。关羽暂降曹操却心系刘备。其含义为表面顺从，内心忠于原主。

文面からみれば、体は曹操の兵営にいるが、心は漢にあるという意味です。この四字熟語に関わりのある人物は関羽です。関羽はしばらくの間に曹操のもとで仕えていましたが、心の中でずっと劉備のことを思っています。「表は服従しますが、内心はもとの人に忠誠を尽くします」のたとえにも用いられます。

